

ラジオ体操・みんなの体操とコミュニティの
形成（地域結束力）についての調査研究
報告書

概 要 版

平成 21 年 4 月

財団法人
統 計 研 究 会

1. 調査の目的と調査・分析の方法

近年、「ソーシャル・キャピタル (social capital, 社会関係資本=人々間の信頼、互酬性、ネットワークといった目に見えない社会的関係)」に関する研究が、世界の国々で急速に取り上げられるようになってきた。このソーシャル・キャピタルという概念は、アメリカの政治学者であるロバート・パットナムによって広められたものである。彼は、代表的な著書“Bowling Alone (孤独なボウリング)”の中で、20世紀後半のアメリカにおいて、一人でボウリングをする人が増えていることに注目し、このことをアメリカにおけるソーシャル・キャピタル減退の一つの象徴的な例として挙げている。

このような背景のもと、当会では、財団法人簡易保険加入者協会の委託を受け、2008年9月から、「ラジオ体操・みんなの体操とコミュニティの形成（地域結束力）について」の調査研究プロジェクトを立ち上げ研究を進めてきた。本調査研究は、アメリカにおけるボウリングの事例を、日本のラジオ体操・みんなの体操に置き換えることにより、ラジオ体操・みんなの体操会等が実施されている地域のソーシャル・キャピタルの実態について把握することを目的としたものである。また、本調査研究では、分析を進めていく中で、ラジオ体操会・みんなの体操会の「場」の持つ機能の一つとして「弱い紐帯」および「強い紐帯」という概念を提示しており、特に「弱い紐帯」によるコミュニティの形成を一つの仮説として検証を進めた点にも特徴がある。ここで「弱い紐帯」とは、例えば、「コンビニエンスストアに一人で行って、立ち読みをしている若者が、そこで立ち読みをするという行為によって、一人で本を読んでいるのにもかかわらず、なんらかの連帯感を感じている」ような場合を指す。つまり、ラジオ体操・みんなの体操会が「弱い紐帯」である場合、参加者が明示的にコミュニティという意識を持っていなくても、なんらかの連帯感をそこに感じ、ラジオ体操・みんなの体操会に参加することが、コミュニティの形成につながることになる。このことから、本調査研究においては、アンケート調査、ヒアリング調査を通して、この「弱い紐帯」の存在が検証されることとなる。

調査研究報告書は以下のような構成となっている。

第1章 調査の目的と意義

第2章 調査の概要

第3章 アンケート調査

第4章 ヒアリング調査

第5章 本調査の結論と今後の課題

以下では、主として第3章と第4章の分析結果について、その概要をまとめることとする。本調査研究は、ラジオ体操・みんなの体操会についてコミュニティーという観点から見ていくものであるが、この分析のために、アンケート調査及びヒアリング調査を実施し、これらの結果をもとに分析を進めている。まず、アンケート調査の結果について確認していこう。

今回、アンケート調査の対象としたのは、「ラジオ体操・みんなの体操健康タウン」推進モデル地域である6市（埼玉県鶴ヶ島市、新座市、神奈川県相模原市、横須賀市、群馬県高崎市、大分市）に東京都墨田区を加えた7地域に所在するラジオ体操会・みんなの体操会の参加者である。アンケート調査の配布に当たっては、各地域におけるラジオ体操会・みんなの体操会の代表者や管理者にアンケートの配布を依頼した。回収はアンケートに同封した返信用封筒を使い回答者が自ら返信するという自計方式をとっている。また、調査期間は、2008年11月1日から11月28日である。調査票の配布数は、7地域全体で2225通、回答数は1486通となり、回収率は65%程度となっている。但し、今回のアンケート調査は、ラジオ体操会・みんなの体操会の代表者や管理者からアンケート調査を配布するという方式をとっているため、7地域に配布しているものの、ここから得られた結果に地域差が出たとしても、それが地域の特性なのか配布先のラジオ体操会の特性によるものなのかを判断することや、ラジオ体操・みんなの体操会内での配布を代表者あるいは管理者に頼っているため、今回の回答者の平均値がラジオ体操・みんなの体操会の平均値と一致するの否かなどについて、厳密に統計的な判断をすることは難しいという点には留意しておく必要がある。例えば、ラジオ体操・みんなの体操会内での配布に際して、代表者や管理者が配布しやすい参加者に優先的にアンケート票を配布した場合、代表者・管理者の近所の人々や仲の良いグループ、年齢階級が近いグループやラジオ体操・みんなの体操会への参加頻度が非常に高いグループなど特定の属性に近い回答者が、回答していることになるため、集計結果にはこのような要因によるバイアスがかかることとなる。このことから単純にアンケート調査の集計表を見て集計結果を解釈する際には、これらのバイアスの可能性について十分留意する必要がある。しかしながら、本調査研究においては、アンケ

アンケート調査と比べ規模は大きくないものの、併せてヒアリング調査を実施しており、この調査はアンケート調査の結果を補強する性質のものとなっている。このことから分析結果を解釈していく際には、アンケート調査とヒアリング調査を併せて参照することが望まれる。以下では、このような点に留意しつつ、調査結果について概要を述べることとする。

2. 調査結果の概要

前述の通り、今回のアンケート調査では 1486 通の回答があったが、このうち単数回答にもかかわらず複数回答しているなど回答に不備のあったものについては無効としたため、有効回答数は 1423 通となっている。設問は 20 項目あり、このうちラジオ体操・みんなの体操会に関連する事項が問 1～13 の計 13 問、回答者の属性に関する事項が問 14～18 の計 5 問、ラジオ体操関連機関についての事項が問 19、20 の計 2 問となっている。

図表 1 を確認しよう。ラジオ体操会への参加者の参加頻度と参加年数を見てみると、参加頻度については「ほぼ毎日」という回答者が半数を超し、参加年数については「10 年以上」である回答者が 3 割弱程度おり、「5 年以上」参加しているものまで含めると半数近くを占める。今回のアンケート調査における回答者の多くは、先述の通りアンケートの配布方法などの理由から、ラジオ体操・みんなの体操会の参加者の中でも参加率が高い人々である可能性もあるが、この点を勘案しても非常に参加年数・参加頻度の高い回答者が多いことがわかる。また、参加者の「Q4. 目的」と「Q6. 効果」の関係は非常に興味深い結果が得られている。例えば、目的において「健康維持」は 78.1%であるのに対し、効果については 61.5%という結果になっているが、この一方で、他の項目を確認すると、目的が「仲間との交流」であるとしたものが 47.6%であるのに対し、効果について「仲間との交流」を挙げたものは 48.6%と増加しており、目的としたものとは別に多くの効果が得られている可能性があることが分かる。今回のアンケート調査において特に重要な意味を持つのは、ラジオ体操会・みんなの体操会の参加者が、どのような目的で参加しており、どのような効果を感じているのかという点であるから、ほとんどの人々が、ラジオ体操会・みんなの体操会に参加する目的は「健康維持」であると回答しているにもかかわらず、「仲間との交流」については、目的としてはそれをあげていなかった人々も含め、その効果を感じていることが確認されている点は非常に興味深い結果といえるだろう。

図表 1 調査対象全ての地域についての集計

ラジオ体操・みんなの体操会とそれに関連する事項についてお伺いします。該当する番号に○を付けてください。

問	設問内容	選択肢	回答数	構成比 (x/1423)	計
1	ラジオ体操・みんなの体操会にどのくらいの頻度で参加していますか。	1 ほぼ毎日	758	53.3%	1,374
		2 週に3~4回	122	8.6%	
		3 週に1~2回	125	8.8%	
		4 月に1~3回	94	6.6%	
		5 休暇・夏休み等のみ	275	19.3%	
2	ラジオ体操・みんなの体操会に参加してからどれくらいになりますか。	1 10年以上	400	28.1%	1,379
		2 5年以上	298	20.9%	
		3 3年以上	218	15.3%	
		4 1年以上	221	15.5%	
		5 1年未満	242	17.0%	
3	最初にラジオ体操・みんなの体操会をどこで知りましたか。	1 家族	91	6.4%	1,371
		2 知人・友人	484	34.0%	
		3 地域の広報誌や回覧板	471	33.1%	
		4 ホームページ	5	0.4%	
		5 その他	320	22.5%	
4	ラジオ体操・みんなの体操会に参加する目的について教えてください。	1 健康維持	1,112	78.1%	2,802
		2 規則正しい生活習慣	706	49.6%	
		3 仲間との交流	678	47.6%	
		4 気分転換などのため	245	17.2%	
		5 その他	61	4.3%	
5	ラジオ体操・みんなの体操会に参加してから何か効果はありましたか。	1 とても効果があった	570	40.1%	1,393
		2 ある程度効果があった	612	43.0%	
		3 どちらともいえない	187	13.1%	
		4 あまり効果がなかった	20	1.4%	
		5 全く効果がなかった	4	0.3%	
6	(問5で「とても効果があった」あるいは「ある程度効果があった」と回答した方のみ)どのような効果がありましたか。	1 健康維持	875	61.5%	2,623
		2 規則正しい生活習慣	732	51.4%	
		3 仲間との交流	691	48.6%	
		4 気分転換などのため	269	18.9%	
		5 その他	56	3.9%	
7	ラジオ体操・みんなの体操会以外に地域の活動に参加していますか。	1 参加している	920	64.7%	1,307
		2 過去に参加していた	90	6.3%	
		3 参加していない	297	20.9%	
8	(問7で参加していると答えた方のみ)どのような活動に参加していますか。	1 防犯、防災、交通安全	284	20.0%	1,968
		2 ごみ問題、リサイクル	209	14.7%	
		3 自治会、子ども会	419	29.4%	
		4 高齢・障害者支援、子育て	131	9.2%	
		5 地域の祭り、行事	528	37.1%	
		6 ラジオ体操会以外のスポーツ活動	310	21.8%	
		7 その他の活動	87	6.1%	
9	それらの活動にどれくらいの熱意で参加していますか。	1 非常に熱心	183	12.9%	920
		2 どちらかという熱心	336	23.6%	
		3 ふつう	374	26.3%	
		4 あまり熱心ではない	8	0.6%	
		5 義務として	19	1.3%	
10	あなたが日常生活の中で満足しているものは何ですか。	1 地域の教育	70	4.9%	2,379
		2 地域の環境	633	44.5%	
		3 地域の医療	158	11.1%	
		4 地域の防犯・治安	377	26.5%	
		5 地域の人間関係	695	48.8%	
		6 地域の利便性	423	29.7%	
		7 その他	23	1.6%	
11	あなたが日常生活の中で不満を感じるものは何ですか。	1 地域の教育	228	16.0%	1,627
		2 地域の環境	247	17.4%	
		3 地域の医療	328	23.0%	
		4 地域の防犯・治安	326	22.9%	
		5 地域の人間関係	213	15.0%	
		6 地域の利便性	243	17.1%	
		7 その他	42	3.0%	
12	総合してあなたは現在の生活に満足していますか。	1 満足している	1,141	80.2%	1,284
		2 満足していない	143	10.0%	
13	あなたは、ご自身がお住まいの地域の結束力についてどうお考えですか。	1 非常に結束力がある	120	8.4%	1,304
		2 まあ、結束力がある	481	33.8%	
		3 ふつう	530	37.2%	
		4 あまり結束力がない	155	10.9%	
		5 全く結束力がない	18	1.3%	

あなたご自身のことについてお伺いいたします。差し支えない範囲で結構ですので、該当する番号に○をつけて下さい。

問	設問内容	選択肢	回答数	構成比 (x/1423)	計
14	あなたの性別は。	1 男性	530	37.2%	1,377
		2 女性	847	59.5%	
15	あなたの年齢は(平成20年11月1日現在)	1 19歳以下	11	0.8%	1,335
		2 20歳代	8	0.6%	
		3 30歳代	85	6.0%	
		4 40歳代	109	7.7%	
		5 50歳代	106	7.4%	
		6 60歳代	485	34.1%	
		7 70歳以上	531	37.3%	
16	現在お住まいの地区に住んで何年ぐらいになりますか。	1 5年未満	63	4.4%	1,331
		2 5～10年未満	107	7.5%	
		3 10～20年未満	159	11.2%	
		4 20～30年未満	209	14.7%	
		5 30年以上	793	55.7%	
17	同居している人はいますか。	1 はい	1,132	79.6%	1,327
		2 いいえ	195	13.7%	
18	あなたは現在仕事をしていますか。	1 自営業・役員	226	15.9%	1,397
		2 常勤	128	9.0%	
		3 非常勤・パート	190	13.4%	
		4 不定期、月に4～5日程度 仕事をしていない	66	4.6%	
		5	787	55.3%	

ラジオ体操・みんなの体操の普及促進については、これまで郵便局(平成19年10月の民営化後は(株)かんぽ生命保険)、NHK、全国ラジオ体操連盟が共同して当たってきましたが、これらの機関等からラジオ体操・みんなの体操会等へのバックアップ(支援)についてお聞きします。

問	設問内容	選択肢	回答数	構成比 (x/1423)	計
19	これまでにこれらの機関等からのバックアップがありましたか。	1 バックアップがあった	278	19.5%	1,308
		2 バックアップはなかった	210	14.8%	
		3 よく分からない	820	57.6%	
20	これらの機関等に今後バックアップ等で期待することはありますか。	1 ある	371	26.1%	969
		2 ない	598	42.0%	

以上の、問 4 の目的と問 6 の効果の関係について、図表 2 を確認するとより詳細な状況が把握できる。図表の表頭には「目的」のみ記載されているが、表側は「目的」、「効果」、「効果－目的」の 3 つの項目が記してある。表側の最初の項目である問 4 「目的」は、表頭と一致するため、対角線上にあるものは当然 100% の表記になっているが、複数回答を認める設問であるため、目的で健康維持と回答したものであっても、規則正しい生活習慣などほかの選択肢も同時に選択することが可能となっている。次に表側の問 6 「効果」に関する箇所を見ると、表頭の問 4 において健康維持、生活習慣、交流、気分転換、その他と回答した回答者のうち問 6 「効果」でどのように回答しているかを確認することができる。最後に、表側の「問 6－問 4」は、効果の構成比から目的の構成比を差し引いたものである。これにより、当初の目的と異なる効果を得たと感じている回答者がどの程度いるのかを確認することができる。本調査研究において、特に重要であると思われる箇所は、効果として「仲間との交流」を選択する人々がどの程度存在するかという点にあるため、

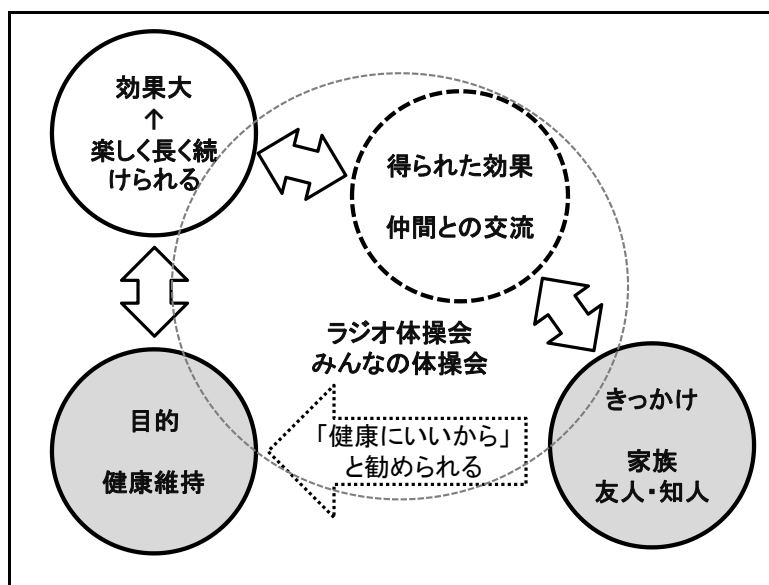
この点を確認すると、健康維持、生活習慣、その他を目的としてラジオ体操・みんなの体操会に参加している参加者について、目的よりも効果について選択している回答者が多いことが分かる。また、これらの点については、ヒアリング調査においても確認されており、目的としては圧倒的に健康維持と回答する回答者が多いのに対して、その効果としては、もちろん健康維持を挙げる回答者は多いが、ラジオ体操会の活動からの広がりとして、山登りやハイキング、忘年会といったイベント性の高い活動から、町内のパトロールといった非営利活動まで幅広く活動が展開されていることが確認された。また、このような組織としての活動はないまでも、ラジオ体操・みんなの体操会において顔を合わせるメンバーには、その他の時間に街で顔を合わせるとあいさつ程度はするといった効果も確認されている。

図表 2 クロス集計-目的と効果-

問	設問内容	選択肢	問4 ラジオ体操に参加する目的				
			健康維持	生活習慣	交流	気分転換	その他
			構成比 (x/1112)	構成比 (x/705)	構成比 (x/678)	構成比 (x/245)	構成比 (x/61)
4	ラジオ体操・みんなの体操会に参加する目的について教えてください。	1 健康維持	100.0%	78.0%	85.7%	72.2%	36.1%
		2 規則正しい生活習慣	49.6%	100.0%	57.7%	28.2%	29.5%
		3 仲間との交流	52.2%	55.5%	100.0%	46.5%	21.3%
		4 気分転換などのため	15.9%	9.8%	16.8%	100.0%	4.9%
		5 その他	2.0%	2.6%	1.9%	1.2%	100.0%
6	(問5で「とても効果があった」あるいは「ある程度効果があった」と回答した方のみ)どのような効果がありましたか。	1 健康維持	74.7%	67.7%	70.6%	61.2%	31.1%
		2 規則正しい生活習慣	55.9%	79.3%	57.4%	30.2%	26.2%
		3 仲間との交流	53.5%	57.6%	74.6%	44.1%	36.1%
		4 気分転換などのため	19.6%	13.6%	19.3%	57.6%	11.5%
		5 その他	4.0%	2.8%	3.7%	2.9%	26.2%
問6 - 問4		1 健康維持	-25.3%	-10.3%	-15.1%	-11.0%	-5.0%
		2 規則正しい生活習慣	6.3%	-20.7%	-0.3%	2.0%	-3.3%
		3 仲間との交流	1.3%	2.1%	-25.4%	-2.4%	14.8%
		4 気分転換などのため	3.7%	3.8%	2.5%	-42.4%	6.6%
		5 その他	2.0%	0.2%	1.8%	1.7%	-73.8%

ここまで見てきたとおり、ラジオ体操・みんなの体操会の効果は、当初の目的が健康維持であったとしても、なんらかの人々との交流を通して、「弱い紐帯」という形でコミュニティーが形成されていることが確認された。図表 3 は、アンケート調査とヒアリング調査の結果をもとに浮き彫りになったラジオ体操・みんなの体操会の機能を概念図として示したものである。ラジオ体操・みんなの体操会の参加者の多くは、家族や友人に誘われて健康目的で参加し始めることが多い。ラジオ体操・みんなの体操会への参加は健康の維持に寄与することになるが、多くの参加者がいる場所へ定期的に参加をしていくことで、一人

でラジオ体操をおこなうよりも三日坊主にはならず長く続けられることになる。多くの運動がそうであるように、ラジオ体操も定期的に長く続けることによって、効果が上がるものであるから、このような過程において健康維持についての効果が益々上がってくる。さらに副次的な効果として、仲間との交流を深めることにもつながっていき、これが他の参加者を増やすきっかけとなるのである。



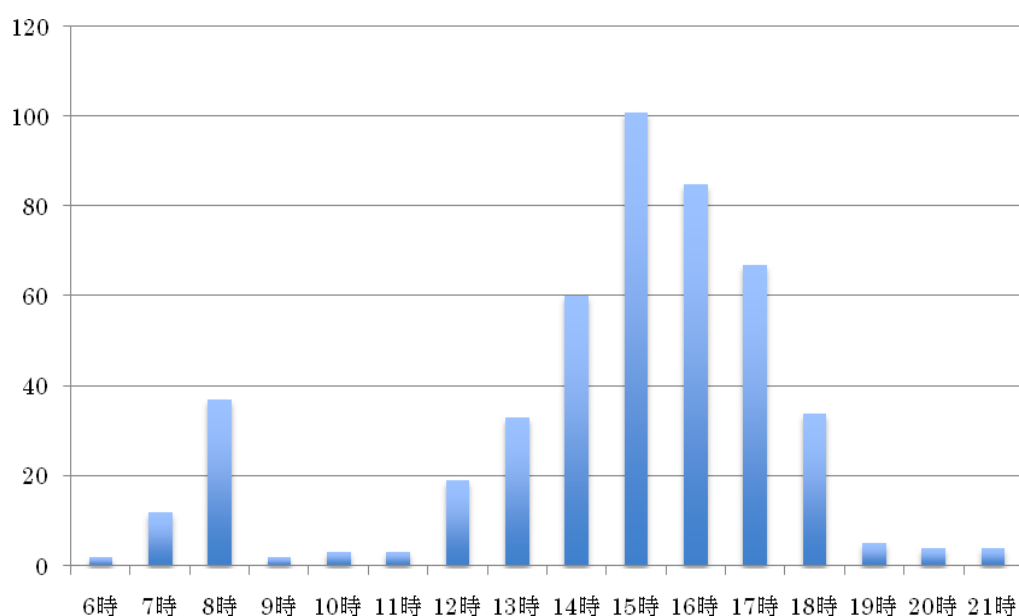
図表 3 ラジオ体操会の効果発生の過程（概念図）

これらのアンケート調査やヒアリング調査の結果から、ラジオ体操・みんなの体操会という「場」は、参加者の目的意識を超えた「副次的効果」が醸成され表面化しているという事例からも確認できるように、非常に緩い形でのコミュニティ形成機能、すなわち「弱い紐帯」の形成機能を有すると考えてよいだろう。また、本調査研究においては、この他にラジオ体操・みんなの体操会の代表者や指導員など組織的に強い結びつきを持ったメンバー、すなわち「強い紐帯」による組織運営とここまでの分析により明らかになった「弱い紐帯」の機能が有機的に結びつくことにより、包括的な地域コミュニティに発展する可能性についても指摘した。まちづくりや地域の防犯体制の強化などの取り組みは、一般的に組織的な取り組みを実施していただくだけでも非常に長い期間がかかることが予想されるが、ラジオ体操・みんなの体操会のような素地がある地域では、このような取り組みも根付いていく可能性があるだろう。

さて、以上の結果に加え、本調査研究では、より具体的な事例としてヒアリング調査と既存統計の関係から、地域の防犯という点について検討をおこなった。地域の安全という

観点からラジオ体操会の活動を評価してみる時、ラジオ体操会の活動そのものの目的としては位置づけられていないが、ラジオ体操終了後に有志によって行われている周辺地域の見回り(パトロール)には暗黙のうちにも一定の役割が与えられていることが推察された。平成15年度「国民生活選好度調査」によれば、地域の防犯に向けた対策で「できることがある」と回答した人の割合は8割に上り、それらの回答のうち最多のものは「夜間に自宅に門灯を点灯する」(39.3%)であったが、それに次いで多かったのは「地域住民によるパトロール活動など」(17.0%)であった。これに「通学時に児童の送迎などをする」(8.2%)を加えると4人に1人の人が巡回の重要性を認識していることになる。

平成19年版の『警察白書』によれば、略取・誘拐や性犯罪等につながる恐れのあるいわゆる「声掛け事案」と呼ばれる子供たちに対する犯罪の前兆現象は、地域住民による取り組みによって被害を未然に防ぐことが肝要とされているからである。プライバシーの関連もありその効果に関する詳細な地域別データは公表されていないが、住民が結束して子供たちを犯罪から守ろうとする取り組みにはどの地域においても大きな期待が寄せられている。



図表4 声掛け事案の発生時間帯(件数)

資料:『平成19年版 警察白書』p.47

しかしながら、ラジオ体操会に参加した人びとによって行われる巡回は定時のラジオ体操終了後に付随的に行われている関係で、午前7時前後には終了する場合がほとんどであ

る。そのため実際に声掛け事案が発生する時間帯とは異なる時間帯に行われており、人びとの善意・熱意にも関わらず十分な効果を発揮しているとは推量しがたい状態になっている。『警察白書』によれば、声掛け事案の発生頻度が最も高いのは学校からの帰路においてであり、時間帯としては午後、特に午後3時をピークとして前後それぞれ3時間に集中している。また相対的に小さな割合ながら学校への登校時にも多発しており午前8時ごろに1つのピークが認められる。すなわち、ラジオ体操会終了後に行われている地域の見回りは声掛け事案が頻発する傾向のある時間帯には対応していないため、直接的な効果というよりも実施しているというパフォーマンスとしての間接的な効果に留まっているだろうと推察されるのである。前段においても述べたとおり、現状においてラジオ体操・みんなの体操会の地域の防犯に対する直接的効果は、現状では強くは発生していないかもしれないが、これまで醸成されてきた「弱い紐帯」としてのラジオ体操・みんなの体操会の在り方を利用し、今後の取り組みに活かすことができる余地が十分にあるということが言えよう。

3. ラジオ体操・みんなの体操会の可能性と今後の課題

ラジオ体操会の現実を鑑みると、「弱い紐帯」であることによってその社会的存在意義を有している現在のラジオ体操会に対して、現状においては、そこに参加しなくなったメンバーのケアを求めることはできそうにない。また実態として、かつての肉体労働者で高齢化した男性のスポーツへの参加度は他の人びとに比べて極端に低くなっている。したがって期待の持てる解決策としては、おそらくより大きな社会政策の中でラジオ体操会を位置づけ、各組織の協力の下に、隠された問題を探り出して具体的な対策を講じていくことであろう。

このような今後の重要課題を直視する時、ラジオ体操を含む社会的スポーツの促進に関する社会政策を国際的なフォーラムにおいて深く研究する必要性が感じられる。そして何よりも、そのような成果を踏まえ、社会的なバランス (integrity) のとれたスポーツ政策の実践なかんづくラジオ体操会のあり方が検討されなければならないだろう。その際、なお留意しなければならないことは、確かにスポーツ政策に対する社会的要請に応えるために地域のスポーツ・クラブ（フォーマルなものであれインフォーマルなものであれ）は重要な存在であるが、エリングとノッパーズ (Elling and Knoppers, 2005) が指摘している

ように、スポーツが人々の一体感を増す（社会的内包）手段として有効である一方、逆に人々をバラバラにしてしまう可能性（社会的排除）もあるということである。¹ラジオ体操というスポーツを、人びとが真に求める「文化」としていかにコラボレーションできるのかが問われているのである。

¹ Skille, E. A. (2008), "Understanding sport clubs as sport policy implementers: A theoretical framework for the analysis of the implementation of central sport policy through local and voluntary sport organizations," *International Review for the Sociology of Sport*, Vol. 43, No. 2, pp. 181-200. Elling, A. and A. Knoppers (2005), "Sport, gender and ethnicity: Practises of symbolic inclusion/exclusion," *Journal of Youth and Adolescence*, Vol. 34, No. 3, pp. 257-268.